

支所発地域力向上支援金事業実施報告書（自己評価）

令和5年3月23日

事業実施地区	長野市上ヶ屋（飯綱東区）
事業名	「みんなのくらふと工房」事業
団体名及び 代表者名	（団体名）NPO 法人飯綱高原よっこらしよ （代表者名）代表理事 志村 雅由 （連絡先）電話：090-7011-9269 FAX：026-239-3299 E-メール：info@iizuna.org

■事業概要（選考委員会の助言を含む）

<p>① 事業目的</p> <p>地元住民等も日常的に利用しなくなった荒廃した森林を中心に、令和元年19号台風や集中豪雨など異常気象が原因で、土砂災害の深刻な被害や台風による倒木被害が長野市内でも頻発している。芋井地区も例外ではない。</p> <p>また、子育て世代の親も子も、長野市内や地元における里山保全や自然観察などの体験活動等に参加したり実施する機会が十分とはいえない。長野市のまちづくりアンケートでも、今後そのような活動に参加してみたいと思っている市民が4割程度いる一方で、参加しないという市民も同程度いて、このままの状況が続けば、さらに森林や自然が住民にとって遠い存在になってしまう懸念もある。</p> <p>小中高校の新しい学習指導要領でも「総合的な学習の時間、探求の時間」を重要なプログラムと位置づけられる中、地域の課題を深く理解し、児童生徒が自分事としてその解決を具体的に考え、行動できるよう、地域と連携した機会・場の提供が求められている。</p> <p>そこで本事業では、芋井地区全住民、特に30代～40代のファミリー層をターゲットに、長野市芋井地区、飯綱高原の森林から搬出する間伐材や支障木（倒木の恐れある立木）を活用した本格的なクラフトづくりを体験活動として提供することにより、楽しい体験活動、創作活動を通じて「里山再生」という社会的課題の解決にも意識を向けてもらう。長期的には、保全活動等に直接参加する人材を育てること、さらには住民協働による持続的な地域づくりに貢献することを目的とする。</p> <p>② 事業内容</p> <p>ア みんなのくらふと工房の開設準備</p> <p>クラフトづくりの材料となる木材を確保するため、間伐や支障木等の伐採を行い、よっこらしよ農場に搬入し、製材した。この作業については、法人のメンバーのほか、メンバー以外のスキルを持った方に作業を依頼して行った。</p> <p>・ 伐採作業 8月28日、29日、9月3日、4日、23日</p>	<p>【事業完了日】 令和5年3月22日</p> <p>【総事業費】 333,800円</p> <p>【補助金額】 300,000円</p>
---	--

10月15日、11月6日、12日、23日、12月3日、4日、11日

実施日数 12日

作業人数 法人メンバー2～4名/日、法人外2名/日

- ・ 木材の搬入（ユニック運搬車による）

8月29日、9月23日、11月23日、12月11日

実施日数 4日

作業人数 法人メンバー2名/日

イ くらふと工房の整備

よっこらしよ農場内にある建物で、安全で自由に快適な木工作业が可能となる環境が提供できるよう、木工道具、電動工具の整理整頓や作業環境の整備を行った。（整備に使用する予定だった釘・ビス・建築金物などは、既存のものを利用したので、新たな経費は必要なかった。）

ウ みんなのくらふと工房イベントの開催

（1）スタートイベント開催

くらふと工房の開設イベントを実施した。

日時：9月25日 10:00～13:00

参加対象者：芋井地区住民等 参加者8名

内容：ベンチ・椅子、机、宝箱など、自分の作りたい木作品を選び製作をスタートさせた。ランチを食べ、参加住民同士が交流し、知り合う機会を設けた。

参加全グループが保育園、小学生を含む親子での参加だった。（ランチの食材はフードバンク信州や会員から寄贈があり、それですべて賄ったので、経費がかからなかった。）

（2）芋井小学校、グリーンヒルズ小学校を対象とした体験授業

- ・ 両校でそれぞれ、森林が荒廃していること、災害を甚大化する問題などがあることを知る授業を行った。プランターを制作する体験も行った。

7月20日9時～10時 実施場所：グリーンヒルズ小学校
教室

参加者数：児童、先生 30人

7月20日13時～15時 実施場所：芋井小学校教室

参加者数：児童、先生 25人

- ・ 両校合同による授業を開催した。今年度オープンした飯綱高原森の駅に両校で作成したプランターを持ち寄った。飯綱高原に自生する山野草について学習した上で、プランターに山野草を植える作業をして、森の駅のお客さんが見て楽しめるよう、プ

<p>ランターを設置した。</p> <p>よっこらっしょ農場に移動して、製材機や電動工具に触れたり、両校同士の英語授業で交流した。</p> <p>7月21日10時～12時</p> <p>実施場所：森の駅、よっこらっしょ農場</p> <p>参加者数：児童、先生 58人</p> <p>エ 広報活動</p> <p>くらふと工房は開設以後、いつでも自由に木作業を行うことができる場所として、会員登録制を考えている。まずは、工房の存在を周知するため、スタートイベントの案内チラシを作成し、芋井地区の全戸に配布した。来年度以降の会員登録と利用促進のため、PR チラシを作成し、芋井地区の全戸に配布した。</p> <p>作成チラシ：A4 フルカラー両面 2種類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ くらふと工房スタートイベントチラシ 配布8月末 ・ くらふと工房PR チラシ 配布3月末 <p>作成部数 各1, 000部</p>	
---	--

※活動状況のわかる写真・成果物等を別途添付

■事業効果（目的の達成度・地域への貢献度等について）

<p>○ くらふと工房を9月にオープンさせ、楽しい木工体験と提供することを通じて、子育て世代等の体験不足の解消に貢献できる環境が整った。オープンイベントは芋井地区育成会事業と重なり、当初予定の参加者数は得られなかったが、参加親子は今後工房に通いDIYを始めるきっかけとなった。住民からはその後も利用の問い合わせを頂いている。</p> <p>○ 芋井地区の2つの小学校で、里山整備についての座学やクラフト体験の授業を行い、また両校の合同授業を実現できた。飯綱高原の新たな観光施設の森の駅に、観光客の目を楽しませる山野草のプランターを小学生とともに寄贈できた。</p> <p>○ くらふと工房で木工の材料となる木材は荒廃した地区内の里山、支障木を利用しており、置き去りにされている未利用の木資源を今後持続的に活用が広がることに貢献できた。</p>

※参加人数等、数値化して効果を表せるものがあれば数値化したものも加えて記載をお願いします。

■事業評価（該当欄に○）

	予定を上回る	予定どおり	概ね予定どおり	予定を下回る
事業の内容	○			
事業の効果		○		
特記事項 (評価理由等)	<p>○オープンイベントは芋井地区育成会事業と重なり、当初予定の参加者数は得られなかった。</p> <p>○小学校2校の体験授業は24時間テレビ（日本テレビ系列）で全国放映され、活動の周知につながった。先生・保護者から貴重な体験ができたと感謝された。</p>			

■今後の取組予定

- くらふと工房の会員登録を今後も地区内外に宣伝し、DIY に関心のある層を中心に会員を増やしていく。それにより、地区住民同士、地区外のつながり人口が知り合い、親睦を深める機会を増やす。
- 伐採、搬入、製材を今後も継続し、未利用の木資源を今後持続的に活用していく。